

DEH-P520

CD / チューナーメインユニット

取扱説明書

目次 4ページ

carrozzeria

安全のために必ずお守りください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

- 表示内容を見逃して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



このような絵表示は、注意（警告を含む）しなければならない内容です。



このような絵表示は、禁止（やってはいけないこと）の内容です。



このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

安全上のご注意 (別冊の「安全上のご注意」もお読みください。)



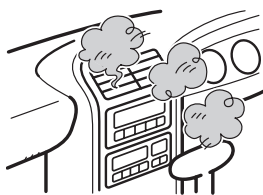
[異常時の処置]

故障のまま使用しない



画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない



万一、煙が出る・変なにおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起きましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

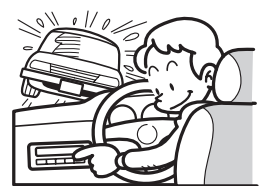
ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

[使用方法]

運転中に操作をしない



画面を長く見る必要がある複雑な機能は、自動車の運転中に操作をしないでください。前方不注意となり交通事故の原因となります。操作は、必ず安全な場所に車を停車させて行ってください。また運転中、画面を注視する時間は必要最低限としてください。

目次

はじめに

- 1 本書のみかた 6
- 2 各部のなまえ 7
- 3 ご使用になる前に 10
- 4 サブウーファーの設定について 12
- 5 フロントパネルの取り外しかた/
取り付けかた 14

ここだけ読めばすぐ使えます

- 1 基本的な操作 16
 - 電源オン・オフ
 - ソース切り換え
 - 音量調節
- 2 CDのふだんの操作 18
 - CDを再生する
 - フォルダー・ディスクを選ぶ
 - 曲を選ぶ
 - 早送り・早戻し
 - CDを取り出す
- 3 ラジオのふだんの操作 20
 - バンドを選ぶ
 - 選局

CD CDを聞く

- 1 ファンクションメニューの
切り換えかた 21
- 2 繰り返し再生する 22
- 3 違う曲順で再生する 23
- 4 曲／フォルダー／ディスクを探す 23
- 5 再生を一時停止する 24
- 6 音を聞きやすくする 25
- 7 10曲飛びに選曲する 26
- 8 聞きたい曲を指定する 26
- 9 指定した曲だけ再生する 27
- 10 曲の指定を1曲ずつ解除する 28
- 11 曲の指定をCDごとで解除する 28
- 12 CDのタイトルを入力する 29
- 13 タイトルやアーティスト名を
表示させる 30

ラジオ ラジオを聞く

- 1 複数の放送局を自動的に登録する 31
- 2 放送局を1局ずつ登録する 31
- 3 登録した放送局を呼び出す 32

iPodを聞く (別売のiPodアダプターを組み合わせたときのみ)

- 1 iPodのふだんの操作 33
- 2 聞きたい曲をさがす 34
- 3 モードの切り換えかた 35
- 4 同じ曲や聞いているリストを
繰り返し聞く 35
- 5 いつもと違う曲順で聞く 36
- 6 再生を一時停止する 36
- 7 タイトル表示を切り換える 36

音の調節 音を調節する

- 1 音質調整について 37
- 2 イコライザーカーブを選ぶ 37
- 3 オーディオ調整メニューの
切り換えかた 38
- 4 前後左右の音量バランスを調節する 38
- 5 イコライザーカーブを調節する 39
- 6 小さな音量でも聞きやすくする 39
- 7 サブウーファーを使う 40
- 8 サブウーファーのON/OFFと
位相切り換え 40
- 9 サブウーファーのカットオフ周波数
選択とレベル調節 41
- 10 低い音を出力しないようにする 41
- 11 低い音を強調させる 42
- 12 音の聞こえてくる方向を自然にする 42
- 13 各ソースの音量を揃える 43
- 14 イコライザーカーブを
細かく調節する 44

本書のみかた

お買い上げ後すぐにお使いになりたいときは、「ここだけ読めばすぐ使えます」の項目をお読みください。CDプレーヤーやラジオなどの基本的な操作方法を説明しています。

基本操作以外の便利な機能については、「CDを聞く」や「ラジオを聞く」、「音を調節する」など、それぞれのソースの項目をお読みください。

ページ内の構成



マークについて



注意マーク

安全のために必ず守っていただきたいこと、本機を操作するときの注意事項、性能を維持するための注意事項について説明します。



用語説明マーク

操作や機能などの用語について説明します。



メモマーク

操作上のヒント、便利な使い方などについて説明します。



CDマーク

CDを再生するときの操作方法を説明します。



CD-ROMマーク

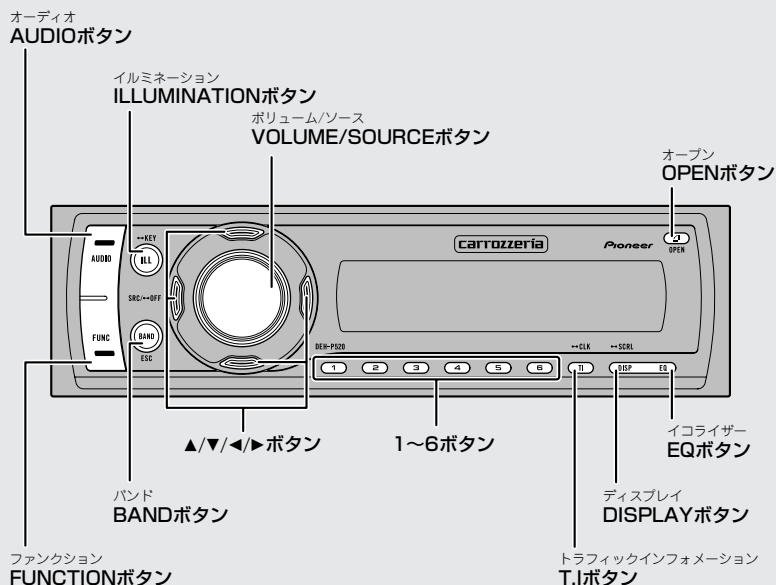
WMA/MP3/AAC/WAVファイルを再生するときの操作方法を説明します。



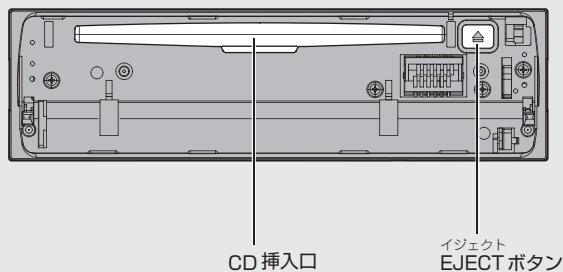
マルチCDプレーヤーマーク

別売のマルチCDプレーヤーを本機に接続して使用するときの操作方法を説明します。

本体（クローズ時）



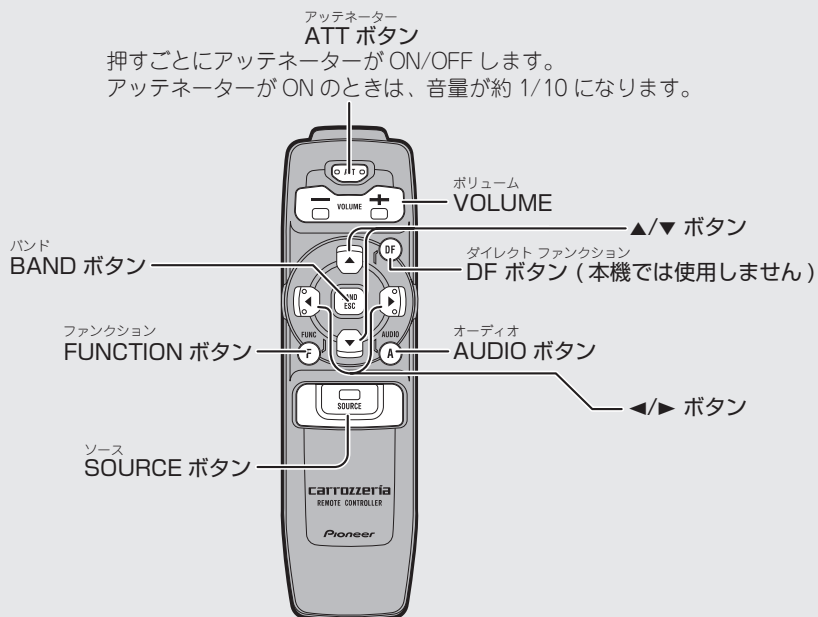
本体（オープン時）



別売のリモコン「CD-R660」について

別売のリモコン「CD-R660」で、本機を操作できます。

リモコンの取り扱いについては、リモコンの説明書をお読みください。



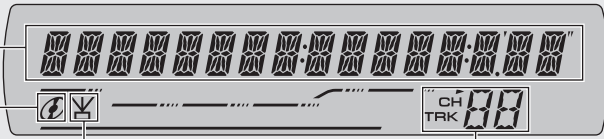
メモ

- 別売のステアリングリモートコントロールユニット「CD-SR100」(以下、ステアリングリモコン)で本機を操作することもできます。ただし、この場合は、一部リモコンでは操作できない機能があります。
- ステアリングリモコンの操作のしかたや取り扱いについては、ステアリングリモコンの説明書をお読みください。

ディスプレイ

メイン表示部

バンドと周波数 (ラジオ)
再生経過時間 (オーディオCD)
フォルダー番号、再生経過時間 (WMA/MP3/AAC/WAV)
ディスク番号、再生経過時間 (マルチCD)
各種設定内容 (ファンクション・オーディオ・初期設定)
などを表示します。



ラジオインジケータ

ソースがラジオのときに点灯します。

内蔵CDインジケータ

ソースが内蔵CDのときに点灯します。

トラック・チャンネルナンバーインジケータ

トラック (曲) 番号や、プリセットチャンネル番号を表示します。
曲数が100を超えたときは、左上の三角マークが点灯します。

ステレオインジケータ

ステレオ放送受信中に点灯します。

FIEインジケータ

FIEがONの時に点灯します。

RDMインジケータ

ランダム再生時に点灯します。

RPTインジケータ

リピート再生時に点灯します。

F-RPTインジケータ

フォルダーリピート再生時に点灯します。(WMA/MP3/AAC/WAV)



LOUDインジケータ

ラウドネスがONの時に点灯します。

BASSインジケータ

バスプースターがONの時に点灯します。

SWインジケータ

サブウーファァの設定がONの時に点灯します。

MP3/WMA/AACインジケータ

MP3/WMA/AACファイルを再生しているときに、再生中の形式に対応したインジケータが点灯します。

WMAについて



外装箱に印刷された、Windows Media™のロゴは、本機がWMAデータの再生に対応していることを示しています。

WMAとは、「Windows Media Audio」の略で、米国Microsoft Corporationによって、開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、Windows Media Player Ver.7以降を使用してエンコードすることができます。

Windows Media、Windowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

MP3について

本機を提供する場合、非営利目的の個人向けライセンスのみが提供されます。下記放送で、本機を使うライセンスを提供したり、いかなる形式にせよ、使う権利を意味するものではありません。下記放送で本機を使用する場合は、それぞれ固有のライセンスが必要となります。

詳細は、インターネット上のホームページ <http://www.mp3licensing.com> をご覧ください。

- 営業目的、すなわち利益の発生するリアルタイム放送（地上波放送、衛星放送、ケーブルテレビを始めとするメディア）、インターネットを使った放送やデータ転送、イントラネットを始めとするネットワーク、あるいはペイオーディオやオンデマンド方式のオーディオといった電子的放送番組の配布システムなど。

AACについて

AACデータは、作成に使用したアプリケーションによってファイル形式と拡張子が異なります。

本機では、Ver. 6.05以前のiTunesを使用してエンコードされたAACファイルの再生に対応しています。

本機は、iTunesで作成された拡張子（.m4a）が付いているファイルを、AACファイルとして再生します。故障の原因となりますので、（.m4a）以外の拡張子の付いたAACファイルを再生しないでください。

iTunesは、米国および他の国々で登録されたApple Computer, Inc.の商標です。

「CD TEXT」について

「CD TEXT」は、CDのタイトル/歌手名/曲名などの文字情報が収録されたCDです。ディスクタイトル面に下記マークの付いているCDは、「CD TEXT」です。（下記マークが付いていない「CD TEXT」もあります。）



50枚型マルチCDプレーヤーの使用について

本機では、50枚型マルチCDプレーヤーの取扱説明書に記載されている50枚型マルチCDプレーヤー特有の機能を操作することはできません。本機で操作できるのは、本書に記載されている機能のみです。また、ディスプレイモードには切り換わりません。

バッテリー上がりを防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。

また、本機が電源OFFのときでも、車のエンジンを止めた状態で、長時間、車のイグニッションスイッチをON（またはACC）にしないでください。バッテリーが上がる恐れがあります。



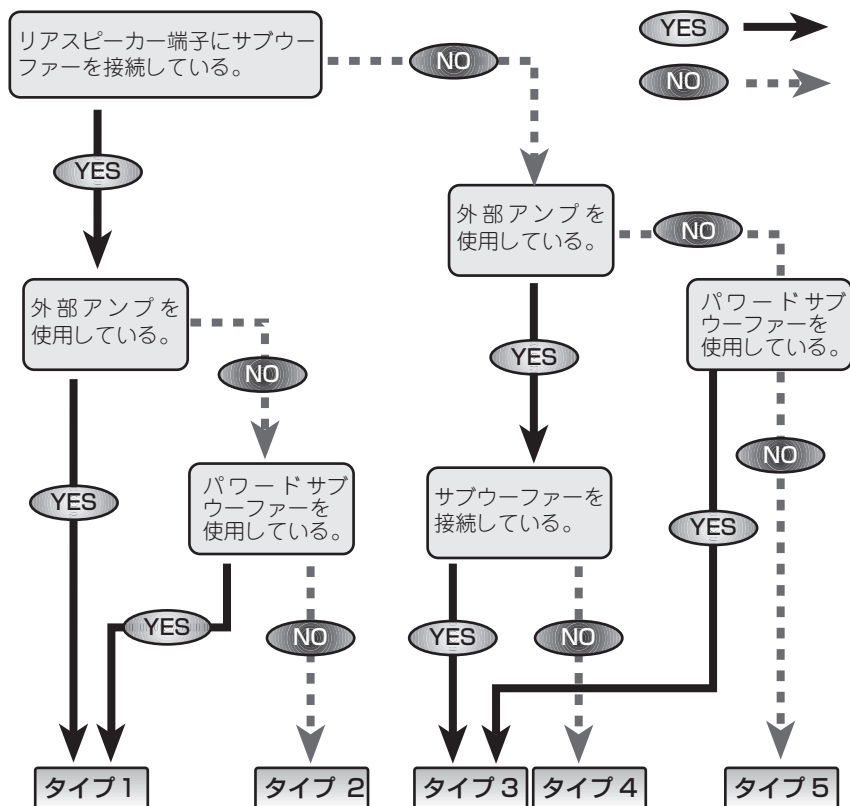
ご注意

- 車のバッテリー交換などで本機に電源が供給されなくなると、本機は初期状態に戻ります。本機が初期状態に戻ると、ラジオのプリセットメモリー、時計、オーディオ調整などの設定内容は消去されてしまいます。ラジオのプリセットメモリーは (P.31) **ラジオ② 31 ページ**、時計調整は (P.45) **初期設定② 45 ページ** を参照して、再設定してください。オーディオ調整の設定内容などは、メモしておくことをおすすめします。再設定の方法については、それぞれのページを参照してください。

サブウーファーの設定について

本機にサブウーファーを組み合わせている場合、本機を使ってサブウーファーの設定ができません。

サブウーファーの接続方法やシステムによって、サブウーファーの設定方法は大きく異なります。次の表に従い、お手持ちのシステムに合ったサブウーファーの設定を行ってください。



タイプ 1

- ※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。
- ※ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターをOFFに設定する。

- 1.初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定をR-SP:S/Wにする
(☞初期設定 ⑤ 47ページ)
- 2.オーディオ調節メニューで、SUB W:ONにする
(☞音の調節 ⑧ 40ページ)
- 3.微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う
(☞音の調節 ① 37ページ)

タイプ 2

- 1.初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定をR-SP:SWにする
(☞初期設定 ⑤ 47ページ)
- 2.オーディオ調節メニューで、SUB W:ONにする
(☞音の調節 ⑧ 40ページ)
- 3.微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う
(☞音の調節 ① 37ページ)

タイプ 3

- ※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。
- ※ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターをOFFに設定する。

- 1.初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定をR-SP:FULにする
(☞初期設定 ⑤ 47ページ)
- 2.初期設定メニューで、RCA外部出力の設定をP/O:S/Wにする
(☞初期設定 ⑥ 48ページ)
- 3.オーディオ調節メニューで、SUB W:ONにする
(☞音の調節 ⑧ 40ページ)
- 4.微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う
(☞音の調節 ① 37ページ)

タイプ 4

- ※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。
- ※ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターをOFFに設定する。

- 1.初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定をR-SP:FULにする
(☞初期設定 ⑤ 47ページ)
- 2.初期設定メニューで、RCA外部出力の設定をP/O:FULにする
(☞初期設定 ⑥ 48ページ)
- 3.オーディオ調節メニューで、SUB W:OFFにする
(☞音の調節 ⑧ 40ページ)

タイプ 5

- 1.初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定をR-SP:FULにする
(☞初期設定 ⑤ 47ページ)
- 2.初期設定メニューで、RCA外部出力の設定をP/O:FULにする
(☞初期設定 ⑥ 48ページ)
- 3.オーディオ調節メニューで、SUB W:OFFにする
(☞音の調節 ⑧ 40ページ)

フロントパネルの取り外しかた/取り付けかた

盗難抑制のため、フロントパネルを取り外すことができます（デタッチャブル機構）。

フロントパネルの取り外しかた



フロントパネルの取り扱い上のご注意

- フロントパネルが固定されている場合は、フロントパネル固定用板金とネジを外してから、フロントパネルを取り外してください。フロントパネル固定用板金とネジは、「フロントパネルを固定する（※取付説明書）」の逆の手順で取り外してください。

1

フロントパネルを開ける

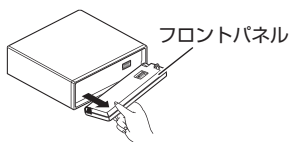
OPEN ボタンを押す

フロントパネルが開きます。

2

フロントパネルの左側を持ってフロントパネルを取り外す

フロントパネルが外れます



メモ

- フロントパネルを取り外した状態でも音声は出力されますが、操作を行うことができません。本機を操作するときは、必ずフロントパネルを取り付けて行ってください。

3

フロントパネルを保管する

付属のフロントパネル保護ケース（フェイスパネルケース）にフロントパネルを入れる

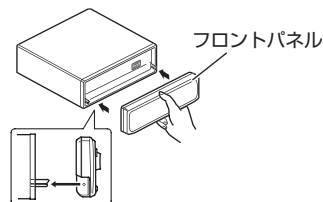
フロントパネルの取り付けかた

1

フロントパネルを取り付ける

フロントパネルの下部を本体のリリース部と合わせて付ける

フロントパネルが付きまます。



フロントパネルの取り扱い上のご注意

- フロントパネルを無理に引いて取り外さないでください。
- 取り外し、取り付けの際に、ディスプレイやボタンを強く持たないでください。
- 落とす、ぶつけるなどの強い衝撃を与えないでください。故障することがあります。
- 分解しないでください。
- ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。
- フロントパネルの端子部分に異物が接触しないようにしてください。故障の原因となります。
- 汚れたときは、きれいな乾いた布でふいてください。その場合に、フロントパネルおよび本体の端子部を触らないようにしてください。接触不良の原因となることがあります。

ここだけで

1

基本的な操作

1 電源を ON にする

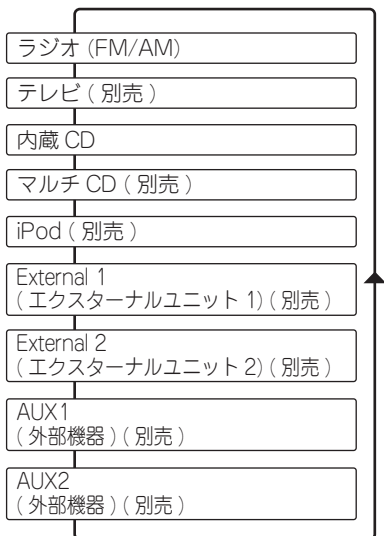
SOURCE ボタンを押す

本機の電源がONになります。

2 ソースを切り換える

SOURCE ボタンを押す

SOURCE ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



3 音量を調節する

VOLUME を回す

右に回す：大きくするとき

左に回す：小さくするとき

●約4秒間、音量が表示されます。

4 電源を切る

SOURCE ボタンを 1 秒以上押す

本機の電源が切れます。



ソースとは

- SOURCE ボタンを押すと切り換わる、内蔵 CD やラジオなどの音源のことです。



External (エクスターナルユニット) とは

- 本機にソースとして認識されないパイオニア製品 (将来発売される製品など) を、エクスターナルユニットと呼びます。本機は、エクスターナルユニットを計2台まで接続してコントロールできます。2台のエクスターナルユニットを接続した場合、それぞれのユニットは External1、External2 ソースとして自動的に認識されます。表示は、どちらを選んだ場合も “EXTERNAL” になります。

テレビを接続したときは

操作のしかたは、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

テレビ (例: 「AVX-P7」) の取扱説明書では、本機以外の製品を例にして、操作を説明している場合があります。その製品と対応しているボタンで操作を行ってください。

詳しくは
取扱説明書
をご覧ください



メモ

- 接続していないソースには切り換わりません。
- 音量の調整範囲は0~62です。
- ディスクをCD挿入口に差し込んだときも、電源がONになります。
- ディスクがセットされていないときは、内蔵CDには切り換わりません。
- AUX (外部機器) の設定 (※ 初期設定 ④ 46ページ) をONにしないと、AUXには切り換わりません。
- AUX1は初期設定ではONに設定されています。使用しない場合はOFFに設定してください。(※ 初期設定 ④ 46ページ)
- 本機の青リード線 (アンテナコントロール) に車側のオートアンテナコントロール端子を接続している場合、ソースをラジオにすると車に装備されているオートアンテナがのびます。
- CDをセットしたまま電源をOFFにすることもできます。
- 電源がOFFのときでも、EJECT ボタンを押してCDを取り出すことができます。
- 時計を表示させている場合、電源をOFFにしても時計は表示されます。

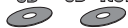
ここでだけ
2 CDのふだんの操作

画面例

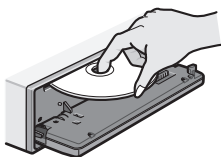


1 CDを再生する

CD CD-ROM



OPEN ボタンを押して、フロントパネルを開き、CDをCD挿入口に差し込む



自動的にCDの再生が始まります。

M-CD



ソースがマルチ CD になるまで、SOURCE ボタンを押す

2 ▲ または ▼ ボタンを押す

CD-ROM M-CD



フォルダー／ディスクが選べます

前のフォルダー／前のディスクを選ぶ

： ▲ を押す

次のフォルダー／次のディスクを選ぶ

： ▼ を押す

3 ◀ または ▶ ボタンを押す

CD CD-ROM M-CD



■ 聞きたい曲を選ぶとき

次の曲を選ぶ： ▶ を押す

前の曲を選ぶ： ◀ を押す

■ 早送り／早戻しをするとき

早送り： ▶ を長く押す

早戻し： ◀ を長く押す

4 他のソースに切り換えるか、電源をオフにする

CD CD-ROM M-CD

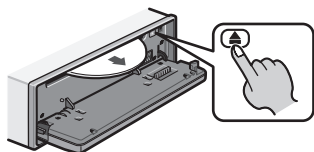


再生が終わります

5 CDを取り出して CD再生をやめる



OPEN ボタンを押してフロントパネルを開き、CD EJECT ボタンを押す



知っているとも便利

- マルチCDプレーヤーを再生中に、1～6のボタンを押して、聞きたいCDを選ぶこともできます。7～12枚目のCDを選ぶ場合は、1～6ボタンを長く押します。
- WMA / MP3 / AAC / WAV の場合、BAND ボタンを長く押すと、フォルダー01 (ROOT) に戻ります。ただし、フォルダー01 (ROOT) にファイルがない場合は、次のフォルダーから再生が始まります。
- ディスクをセットしたまま、電源をOFFにしたり他のソースに切り換えることができます。
- WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルと音楽データが混在しているディスクの場合、再生を切り換えることができます。切り換えるときは、BAND ボタンを押します。再生は一番先頭の曲から始まります。



メモ

- 「CD TEXT」や「CD-ROM」など、文字情報が収録されたディスクでは、ディスクタイトル、曲名などを表示することができます。「タイトルやアーティスト名などを表示させる (CD 30 ページ)」で、表示を切り換えている場合は、ディスクをセットしたときや、他のソースから内蔵CD に切り換えたときなどに、タイトルを自動的に1回スクロール表示します。「CD TEXT」に対応しているマルチCDプレーヤー(「CDX-P670」など)に「CD TEXT」をセットしているときも、ソースをマルチCD に切り換えるとディスクタイトルおよび曲名を自動的に1回スクロール表示します。



ご注意

- ディスクはタイトル面を上にして差し込みます。
- CD挿入口には、CD以外のものを入れないでください。故障の原因となります。
- ディスクを挿入すると、本機はディスクからファイル形式などの情報を読みとります。この間、画面には「FORMAT READ」と表示されます。
- 選曲方法をラフサーチに設定した場合は、10曲飛びに選曲されます。
- CDシングル(8cm CD)もアダプターなしでセットできます。アダプターは絶対に使用しないでください。
- WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルを早送り / 早戻ししているときには、音声は出力されません。
- VBR (可変ビットレート) で録音された WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルを早送り / 早戻しすると、再生経過時間が正しく表示されないことがあります。
- 出てきたCDはすぐに取り出して保管してください。CD挿入口からディスクを出したまま走行すると危険です。
- EJECT ボタンを押してCD再生をやめたときは、自動的に電源OFFになります。

ここで 3 ラジオのふだんの操作

バンドを選ぶ / 選局

画面例

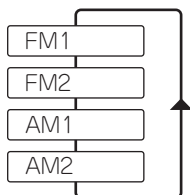


1 SOURCE ボタンを押す

ソースがラジオになるまで押す

2 BAND ボタンを押す

ボタンを押すごとに、バンドが次の順序で切り換わります



3 ◀または▶ ボタンを押す

放送局が選べます

■ 手動で選ぶとき (手動選局)

高い周波数の放送局を選ぶ : ▶ を押す

低い周波数の放送局を選ぶ : ◀ を押す

■ 自動で選ぶとき (自動選局)

高い周波数の放送局を自動で選ぶ

: ▶ を長く押し離す

低い周波数の放送局を自動で選ぶ

: ◀ を長く押し離す

4 別のソースに切り換えるか、電源をオフにする

ラジオの受信が終わります



知っているとも便利

- バンドごとに放送局を6局ずつ登録できます。
- ◀ または ▶ ボタンを押している間、途中の放送局を飛ばすことができます。離れたところから自動選局を開始します。
- 電波の強い放送局を選局するには自動選局を、電波の弱い放送局を選局するには手動選局をおすすめします。

ファンクションメニューの切り換えかた

「繰り返し再生する」「違う曲順で再生する」などの便利な機能を使うときは、ファンクションボタンを押して機能を選んで行います。

(画面例)



使いたい機能を選ぶ

1 ソースを内蔵 CD または、マルチ CD にする

(※ ここだけで ① 16 ページ)

2 FUNCTION ボタンを押す

FUNCTION ボタンを押すことに、次の順序で機能が切り換わります

CD CD-ROM



M-CD



メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND ボタンを押します。(約 30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。)

繰り返し再生する

リピート

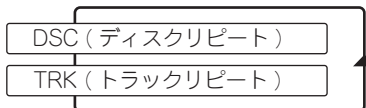
曲を繰り返し（リピート）再生できます。繰り返し再生の範囲は、今聞いている曲やディスク全体などから選べます。選べる範囲はディスクによって異なります。

1 FUNCTION ボタンを押す

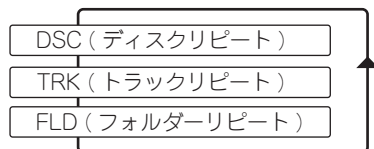
RPT を選びます

2 ◀ または ▶ ボタンを押す

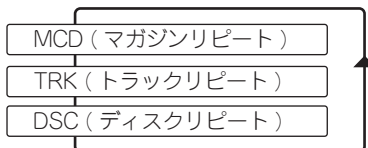
繰り返し再生する範囲が選べます



CD-ROM



M-CD



ディスクリピート:

今聞いているCDを繰り返し再生するときを選びます。

トラックリピート:

今聞いている曲を繰り返し再生するときを選びます。

フォルダーリピート:

今聞いているフォルダーを繰り返し再生するときを選びます。

マガジンリピート:

今聞いているマルチCDプレーヤーのマガジンを繰り返し再生するときを選びます。

3 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

曲やCDを順不同(ランダム)に再生できます。いつもと違った曲順で音楽を楽しみたいときに便利です。

1 ランダムプレイする範囲を選んでおく

ランダムプレイは、RPTで選んだ範囲で行われます(※ CD ② 22ページ)

2 FUNCTION ボタンを押す

RDMを選びます

3 ▲ ボタンを押す

ランダムプレイ設定がONになります
次の曲(フォルダー/ディスク)から、ランダムに再生されます。
▼ ボタンを押すとOFFになります。

4 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



ご注意

- 再生範囲がTRKのときにランダムプレイ設定をONにすると、再生範囲が次のように切り換わってランダムプレイが行われます。
CD/マルチCDプレイヤー：DSC(ディスクリピート)
WMA/MP3/AAC/WAV：FLD(フォルダーリピート)

曲やフォルダー、ディスクの初めの出だしだけを、約10秒ずつ再生できます(スキャンプレイ)。聞きたい曲やフォルダー、ディスクを探すときに便利です。

1 スキャンプレイする範囲を選んでおく

スキャンプレイは、RPTで選んだ範囲で行われます(※ CD ② 22ページ)

■ 聞きたい曲を探すとき (トラックスキャン再生)

再生範囲をディスクリピートに切り換えます。再生中のCDの全曲を、約10秒ずつ再生します。

■ 聞きたいフォルダーを探すとき (フォルダースキャン再生)

WMA/MP3/AAC/WAV再生時に、再生範囲をフォルダーリピートに切り換えます。再生中のCDの全フォルダーの1曲目を、約10秒ずつ再生します。

■ 聞きたいディスクを探すとき (ディスクスキャン再生)

マルチCDプレイヤーでCDを再生中に、再生範囲をマガジンリピートに切り換えます。再生中のマガジンの全ディスクの1曲目を、約10秒ずつ再生します。

2 FUNCTION ボタンを押す

SCANを選びます

3 ▲ ボタンを押す

スキャンプレイ設定がONになります

曲やフォルダー、ディスクの初めの約10秒間次々に再生されます。

スキャンプレイを始めて約30秒たつと、ふだんの再生画面に自動で戻ります。

次のページへ続く

<つづき>

スキャン

4 聞きたい曲やフォルダー、ディスクが再生されたら、▼ ボタンを押す

スキャンプレイ設定がOFFになります

- ふだんの再生画面に戻っていたら、まず手順2の操作でSCANを選びます。次に、▼ ボタンを押してください。スキャンプレイ設定がOFFになります。

5 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



ご注意

- スキャンプレイを始めた曲（フォルダー／ディスク）まで戻ると、スキャンプレイは解除されます。
- 再生範囲がTRK（トラックリピート）のときにスキャンプレイ設定をONにすると、再生範囲が次のように切り換わってスキャンプレイが行われます。
CD／マルチCDプレイヤー：DSC（ディスクリピート）
WMA／MP3／AAC／WAV：FLD（フォルダーリピート）

CD
5

再生を一時停止する

ポーズ

曲の再生を一時停止できます。

1 FUNCTION ボタンを押す

PAUSE を選びます

2 ▲ ボタンを押す

再生が一時停止されます

▼ ボタンを押すとOFFになります。

3 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

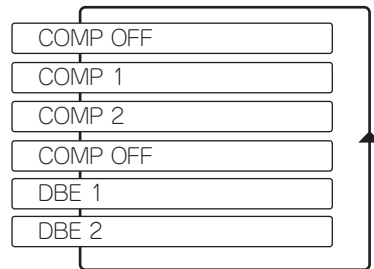
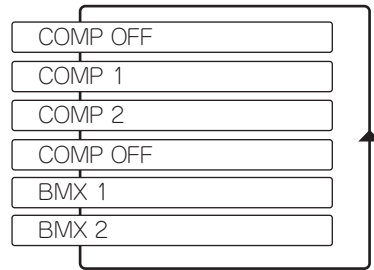
再生しているCDの音質に簡単な補正をかけ、より聞きやすい音に調節できます。

● 内蔵CDプレーヤーで再生している場合

COMPとBMXの2つの機能を使って、CDの音質を手軽に調節できます。COMPはクラシックなど音量差の大きい曲に、BMXは圧縮された音楽データに対して効果的です。

● マルチCDプレーヤーで再生している場合

COMPとDBEの2つの機能を使って、CDの音質を手軽に調節できます。COMPは内蔵CDのCOMP機能と同じ効果があります。DBEは、音楽の低音域を押し上げる効果があります。



COMPとは

- COMPは、「Compression (コンプレッション)」の略です。大きな音と小さな音の音量差 (ダイナミックレンジ) を小さくします。



BMXとは

- BMXは、「Bit Matrix (ビット メトリックス)」の略です。音楽の残響音を補正し、自然な広がりを持った音質に改善します。



DBEとは

- DBEは、「Dynamic Bass Emphasis (ダイナミック バス エンファシス)」の略です。車内で不足しがちな低音域を押し上げる機能です。



ご注意

- COMP (DBE) 機能のないマルチCDを組み合わせたときは、「NO COMP」が表示され、操作ができません。

1 FUNCTION ボタンを押す

COMP (BMX) を選びます

2 ▲ または ▼ ボタンを押す

コンプレッション設定の種類を選びます

3 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



メモ

- COMP、BMX、DBEは1より2の方が効果が大きくなります。

CD
7

10曲飛びに選曲する

FF/REV

10曲以上収録されているディスクまたはフォルダーの場合、10曲飛びに選曲できます。

1 ソースを内蔵CDにして、FUNCTION ボタンを押す

FF/REV (ROUGH) を選びます

2 ▶ ボタンを押す

ラフサーチ設定がROUGHに切り換わります

◀ ボタンを押すと、早送り／早戻しをするFF/REVに切り換わります。

3 BAND ボタンを押す

曲だんの再生画面に戻ります

4 ◀ または ▶ ボタンを長く押す

10曲ごとに選曲できます

10曲前を選ぶとき：◀を長く押す

10曲先を選ぶとき：▶を長く押す



ご注意

- 曲数が10以下のディスクでラフサーチをすると、最初または最後の曲が選択されます。残りの曲数が10以下のときにラフサーチをした場合も同様です。

CD
8

聞きたい曲を指定する

別売マルチCDプレーヤーを接続したときだけ、操作できる機能です。

聞きたい曲だけを再生するために、再生する曲をあらかじめ指定しておくことができます。



ITSとは

- ITSは、「Instant Track Selection (インスタントトラックセレクション)」の略です。聞きたい曲を一時的に指定しておき、指定した曲だけを再生する機能です。ITSの指定は、ITS解除を行うまで有効です (☞ CD ⑩ 27ページ)。



メモ

- 曲の指定はCDごとに行われます。CDを入れ換えても、CDの指定は解除されません。
- CD1枚につき、99曲まで指定できます。(「CDX-P1250」、「CDX-P650」以前に発売されたマルチCDプレーヤーでは、指定できる曲数は24曲目までになります。)
- ITSは、タイトル入力 (☞ CD ⑫ 29ページ) と合わせて、CD100枚分の指定ができます。
- 100枚を超えたときは、一番古い指定内容が解除されて、新しいCDが指定されます。



▲ または ▼ ボタンを押す

指定したいCDを再生します



FUNCTION ボタンを長く押す

タイトル入力画面が表示されます

(☞ CD ⑫ 29ページ)



もう一度、FUNCTION ボタンを押す

ITS 指定画面が表示されます



4 ◀または▶ ボタンを押す

指定したい曲を選びます

5 ▲ ボタンを押す

選択した曲が指定されます

「ITS IN」が2秒間表示され、指定が完了したことを知らせます。

6 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

別売マルチ CD プレーヤーを接続したとき
だけ、操作できる機能です。ITS 指定 (CD 26 ページ) で指定した曲だけ
を再生できます。**1** ITS 再生する範囲を
選んでおくITS 再生は RPT で選んだ範囲で行わ
れます (CD 22 ページ)**2** FUNCTION ボタンを押す

ITS-P を選びます

**3** ▲ ボタンを押す

ITS 再生が ON になります

▼ ボタンを押すと、OFF になります。

4 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

CD
10曲の指定を
1曲ずつ解除する

ITS解除

別売マルチCDプレーヤーを接続したとき
だけ、操作できる機能です。

ITS指定 (☞ CD ⑨ 26ページ) で指定した曲を
1曲ずつ解除することができます。

1 ITS再生をONにする

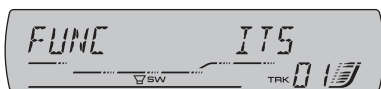
(☞ CD ⑨ 27ページ)

2 ◀または▶ ボタンを押す

解除したい曲を再生します

3 FUNCTION ボタンを
長く押す

ITS 指定画面が表示されます



4 ▼ ボタンを押す

再生していた曲が指定解除され、次に
指定されている曲が再生されます

現在の再生範囲に、ITS指定された曲がなく
なった場合は、「EMPTY」が2秒間表示され
て、ITS再生がOFFになります。

5 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

CD
11曲の指定を
CDごとに解除する

ITS解除

別売マルチCDプレーヤーを接続したとき
だけ、操作できる機能です。

ITS指定 (☞ CD ⑨ 26ページ) で指定した曲を
CDごとに解除することができます。

1 ITS再生をOFFにする

(☞ CD ⑨ 27ページ)

2 ▲または▼ ボタンを押す

解除したいCDを再生します

3 FUNCTION ボタンを
長く押す

タイトル入力画面が表示されます
(☞ CD ⑩ 29ページ)

4 もう一度、FUNCTION
ボタンを押す

ITS 指定画面が表示されます



5 ▼ ボタンを押す

再生していたCDが指定解除されます
「ITS CLR」が2秒間表示され、指定が解除
されたことを知らせます。

6 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

CDのタイトルを入力できます。



ご注意

- 「CD TEXT」(☞ はじめに ⑩ 10 ページ) や、タイトル入力機能のないマルチCDを組み合わせたときは、操作できません。



タイトル入力とは

- タイトル入力は、CDのタイトルを登録しておき、ディスプレイに表示させる機能です。



メモ

- タイトルは、8文字まで入力できます。
- 内蔵CDプレーヤーには、CD48枚分のタイトルを登録できます。
- マルチCDプレーヤーには、ITS (☞ CD ② 26 ページ) と合わせて、CD100枚分のタイトルを登録できます。
- 内蔵CDプレーヤーにタイトルを登録する場合、48枚を超えたときは、一番古いCDのタイトルが消されて、新しいCDのタイトルが登録されます。
- マルチCDプレーヤーにタイトルを登録する場合、100枚を超えたときは、一番古いCDタイトルが消されて、新しいCDのタイトルが登録されます。
- マルチCDプレーヤーに登録したタイトルは、CDを取り出しても登録されたままです。

1 タイトル入力したいCDを再生します

(☞ ここだけで ② 18 ページ)

2 FUNCTION ボタンを長く押す

タイトル入力画面が表示されます



3 ◀ または ▶ ボタンを押す

入力したい位置にカーソルを移動します

- 右に移動するとき : ▶ を押す
- 左に移動するとき : ◀ を押す

4

▲ または ▼ ボタンを押す

入力したい文字を選びます

次の文字を選ぶとき : ▲ を押す
前の文字を選ぶとき : ▼ を押す

▲ または ▼ ボタンを押して、入力する文字の種類を変更できます。

文字は、空白 ()、アルファベット (A~Z)、記号 (!, +, # など)、数字 (0~9) のの中から選ぶことができます。

5

▶ ボタンを押す

8文字目を点滅させます

6

▶ ボタンを押す

入力したタイトルが登録されます

入力位置の点滅が終わると、入力したタイトルが登録されます。

7

BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

タイトル入力中 (文字が点滅しているとき) に BAND ボタンを押すと、タイトル入力画面が解除されて、ふだんの再生画面に戻ります。(入力中のタイトルは登録されません。)

タイトルやアーティスト名を表示させる

タイトル表示

「CD TEXT」やWMA/MP3/AAC/WAVディスク再生中に、トラックタイトルやディスクタイトル、アーティスト名などを表示させることができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見することもできます。



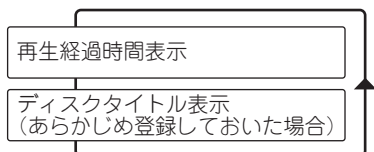
ご注意

- 本機の文字表示は、半角英数字のみに対応しています。

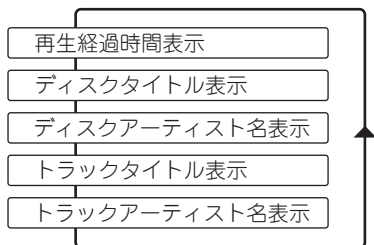


DISPLAY ボタンを押す

DISPLAY ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります



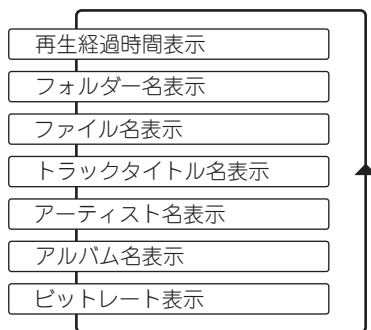
(「CD TEXT」再生時)



CD-ROM



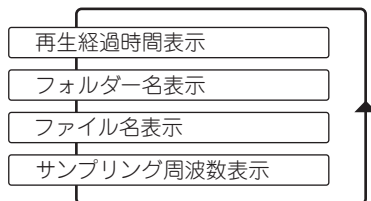
(WMA / MP3 / AAC 再生時)



CD-ROM



(WAV 再生時)



知っている则便利

- 隠れている文字を表示させるには、DISPLAY ボタンを長く押しします。



ご注意

- タイトル名などが収録されていないディスクで表示を切り換えると、「NO NAME」などが表示されます。
- WMA ファイルをエンコードした Windows Media Player のバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- MP3 ファイルや AAC ファイルをライティングした iTunes のバージョンによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。

複数の放送局を自動的に登録する

BSM

BSM機能を使うと、受信状態の良い放送局を自動で探して登録できます。登録された放送局は、手軽に受信できます。



BSMとは

- BSMは、「Best Stations Memory (ベストステーションズメモリー)」の略です。

1 ソースをラジオにする

SOURCE ボタンを押す

2 BAND ボタンを押す

登録するバンドを選びます

- バンド1とバンド2を切り換えて使うことで、より多くの放送局を登録できます。例えば、バンド1にはふだんよく聞く放送局を登録しておきます。旅行先などで、どんな放送局があるかわからない地域に行ったときに、バンド2に切り換えてBSMを使うと便利です。バンド1に登録した放送局を消さずに、バンド2でその地域の放送局を受信できます。

3 FUNCTION ボタンを押す

BSMを選びます

4 ▲ ボタンを押す

BSMによる登録が始まります

登録が完了すると「BSM」の点滅が終わり、1の番号に登録された放送局を受信します。

▼ ボタンを押すと、BSMの登録処理を途中でやめることができます。

5 BAND ボタンを押す

ふだんの受信画面に戻ります



ご注意

- 受信状態のよい放送局が6局より少ないときは、前に登録した内容が残ることがあります。

放送局を1局ずつ登録する

プリセットメモリー

1～6のボタンを使って、よく聞く放送局を1局ずつ手で登録できます（プリセットメモリー）。

登録した放送局は、手軽に受信できます。

1 ソースをラジオにする

2 BAND ボタンを押す

登録するバンドを選びます

3 ◀または▶ ボタンを押す

登録したい放送局を選びます

4 1～6 ボタンの1つを長く押す

放送局が登録されます

登録動作中に押したボタンの番号（登録番号）が点滅します。

登録が完了すると登録番号の点滅が終わり、その放送局を受信します。

ラジオ

3

登録した放送局を呼び出す

プリセットチューニング

BSMやプリセットメモリーで登録した放送局を、手軽に受信できます。

1

ソースをラジオにする

2

BAND ボタンを押す

放送局を登録したバンドを選びます

3

登録した放送局を受信する

■直接受信するとき

1～6ボタンの1つを押す

■順番に受信するとき

▲ または ▼ ボタンを押す

iPodについて

iPodコントロール対応

当社のiPodアダプター（「CD-IB10II」）と組み合わせると、iPodを本機から操作することができます。

iPodは、米国および他の国々で登録されたApple Computer, Inc. の商標です。

本機でのiPodアダプター（例：「CD-IB10II」）の基本的な操作方法を説明しています。iPodアダプターの機能について詳しくは、組み合わせたiPodアダプターの取扱説明書をご覧ください。（本機は「メインユニット1」に相当します）

（画面例）



iPod
1

iPodのふだんの操作

ここだけの操作で、iPodの音楽を聞くことができます。

1 ソースをiPodにする

SOURCE ボタンを押す

2 ◀または▶ ボタンを押す

■聞きたい曲を選ぶとき

次の曲を選ぶ：▶を押す

前の曲を選ぶ：◀を押す

■早送り／早戻しをするとき

早送り：▶を長く押す

早戻し：◀を長く押す

3 iPodの再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源をOFFにする



メモ

- 再生範囲が、1曲リピートのときは、◀ または ▶ ボタンを押して曲を選ぶことはできません。

iPod
2

聞きたい曲をさがす

ミュージック (ブラウズ)

ジャンル、アーティスト、アルバムのリストから、お好みのアーティストやアルバムなどを選んで再生できます。



メモ

- PLAYLISTS (プレイリスト) を選択した場合、本機では最初に iPod の本体名称のプレイリストを表示します。それは iPod に収録されている全ての曲を再生するプレイリストです。
- 本機が表示できない文字が iPod に記録されている場合、その文字は表示されません。
- 本機が表示できる文字が iPod に記録されていない場合、「NO INFO」が表示されます。

1 ブラウズモードにする

▲ または ▼ ボタンを押す

2 カテゴリーを選ぶ

▲ または ▼ ボタンを押してカテゴリーを表示し、▶ ボタンを押す

▲ または ▼ ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

PLAYLISTS (プレイリスト)



ARTISTS (アーティスト)



ALBUMS (アルバム)



SONGS (曲)



GENRES (ジャンル)



PLAYLISTS (プレイリストに戻る)

3 お好みのジャンル (例: 「JAZZ」) を選ぶ

▲ または ▼ ボタンを押して「JAZZ」を表示し、▶ ボタンを押す



「JAZZ」に登録されているアーティストのリストが表示されます。

4 お好みのアーティスト (例: 「ARTIST 2」) を選ぶ

▲ または ▼ ボタンを押して「ARTIST 2」を表示し、▶ ボタンを押す



「ARTIST 2」に登録されているアルバムのリストが表示されます。

5 お好みのアルバム (例: 「ALBUM B」) を選ぶ

▲ または ▼ ボタンを押して「ALBUM B」を表示し、▶ ボタンを押す



「ALBUM B」に登録されている曲のリストが表示されます。

6 お好みの曲 (例: 「SONG C」) を選ぶ

▲ または ▼ ボタンを押して「SONG C」を表示し、▶ ボタンを押す



「SONG C」の再生が始まります。



メモ

- 1つ前のリストに戻るには、◀ ボタンを押します。
- 手順3で、再生したいリストを表示しているときに、▶ ボタンを2秒以上押しすと、選んだリストをすぐに再生することができます。

iPod
3

モードの切り換え かた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

(画面例)



使いたい機能を選ぶ

1 FUNCTION ボタンを押す

FUNCTION ボタンを押すごとに、次の順序で機能が切り換わります



メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND ボタンを押します。(約30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。)

iPod
4

同じ曲や聞いている リストを繰り返し聞く

リピート再生

曲を繰り返し (リピート) 再生できます。繰り返しの範囲は、今聞いている曲、今聞いているリストから選べます。



再生範囲について

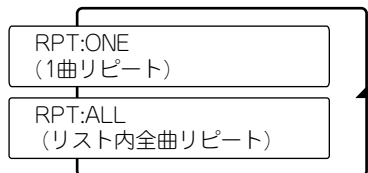
表示	再生範囲
RPT:ONE	再生中の曲を繰り返し再生します。
RPT:ALL	再生中のリストを繰り返し再生します。

1 FUNCTION ボタンを押す

RPT を選びます

2 ◀ または ▶ ボタンを押す

◀ または ▶ ボタンを押すごとに、リピート再生する範囲が選べます



メモ

- 1曲リピートを選んだ場合、◀ または ▶ ボタンを押しても、曲を切り換えることはできません。

iPod
5いつもと違う曲順で
聞く

シャッフル再生

いつもと違う曲順(ランダム)で再生ができます。



シャッフル再生について

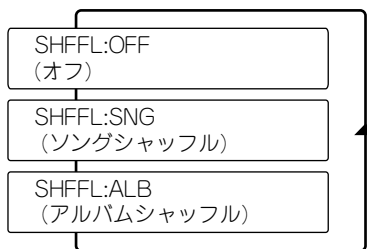
表示	再生範囲
SHFFL:OFF	曲を順番通りに再生します。
SHFFL:SNG	再生中のリスト内の曲をランダムに再生します。
SHFFL:ALB	アルバムをランダムに選び、選んだアルバム内の曲を順番通りに再生します。

1 FUNCTION ボタンを押す

SHFFL を選びます

2 ◀ または ▶ ボタンを押す

◀ または ▶ ボタンを押すごとに、次の順序で、シャッフル設定が切り換わります

iPod
6

再生を一時停止する

ポーズ

再生を一時停止できます。

1 FUNCTION ボタンを押す

PAUSE を選びます

2 ▲ ボタンを押す

再生が一時停止されます

▼ ボタンを押すと OFF になります。

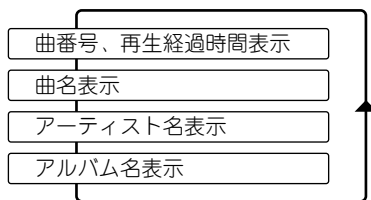
iPod
7タイトル表示を
切り換える

タイトル表示 / タイトルスクロール

iPod に記録されている曲名やアーティストネーム、アルバムタイトルなどを表示させることができます。8文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見ることできます。

1 DISPLAY ボタンを押す

DISPLAY ボタンを押すごとに次のように切り換わります



知っていると便利

- 隠れている文字を表示させるには、DISPLAY ボタンを長く押します。



メモ

- 本機が表示できない文字が iPod に記録されている場合、その文字は表示されません。
- 本機が表示できる文字が iPod に記録されていない場合、「NO INFO」が表示されます。
- 曲番号が 10 000 以上の場合、「一」が表示されます。

音質調整について

音質調整

効果的な音質調整のために

本機は、より良い音響空間をつくり出すために、多彩な音質調整機能を搭載しています。お好みの車内音場になるように、音質調整機能を組み合わせて音を調節してください。

音質調整機能は、EQ ボタン、AUDIO ボタンを押して使用します。

EQ ボタンを
押して行う機能

イコライザーカーブを選択して、音を調節します。たとえば、「ロックを聞いているときはパワフルな音で」といったように、聞いている曲のジャンルに合ったイコライザーカーブを選ぶことで、曲の魅力を活かした音で聞くことができます。

選択したイコライザーカーブは、さらに細かく調節することもできます。

AUDIO ボタンを
短く押して行う機能

ラウドネスなど、さまざまな音質調整を行うことができます。

AUDIO ボタンを
長く押して行う機能

イコライザーカーブを細かく調節して、お好みに合った音質に設定できます。

イコライザーカーブ
を選ぶ

あらかじめ用意されたイコライザーカーブを選ぶだけで、お好みの音質にできます。

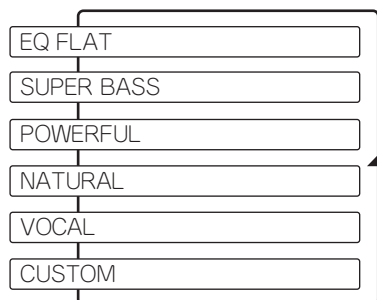


ご注意

- 交通情報を受信しているときは、イコライザーカーブを選ばません。

1 EQ ボタンを押す

EQ ボタンを押すごとに、次の順序でイコライザーカーブが切り換わります



メモ

- “CUSTOM” には、お好みに合わせて調節したイコライザーカーブが登録されます。
- “EQ FLAT” カーブでは、イコライザーによる音の補正は行いません。イコライザーの効果を確認するときに使用すると便利です。

音の調節

3

オーディオ調整メニューの切り換えかた

「音量バランス調節」「ラウドネス」などの音質調整機能を使うときは、オーディオ調整メニューで操作します。

(画面例)



1 AUDIO ボタンを押す

AUDIO ボタンを押すごとに、次の順序で機能が切り換わります



メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND ボタンを押します。また、約30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。
- ラジオのFMを聞いているときは、SLAには切り換わりません。

音の調節

4

前後左右の音量バランスを調節する
フェーダー/バランス

前後左右のスピーカーからの音量バランスを調節できます。より自然に聞こえるバランスに設定してください。

1 AUDIO ボタンを押す

FAD/BAL (音量バランス調節メニュー) が表示されます



ご注意

- 「リアスピーカー出力の設定 (初期設定 47 ページ)」を、R-SP:S/Wにしたときは、FAD (フェーダー) は調節できません。

2 ▲ または ▼ ボタンを押す

前後の音量バランス (FAD) を調節できます

前を強めるとき : ▲ を押す

後ろを強めるとき : ▼ を押す

前後のバランスは、F15～R15の範囲で調節できます。

3 ◀ または ▶ ボタンを押す

左右の音量バランス (BAL) を調節できます

右を強めるとき : ▶ を押す

左を強めるとき : ◀ を押す

左右のバランスは、L15～R15の範囲で調節できます。

4 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

イコライザーカーブを調節する

あらかじめ用意されたイコライザーカーブに簡単な補正を加えることができます。これにより、よりお好みにあった音質を作り出すことができます。

設定したイコライザーカーブは、自動的に“CUSTOM”カーブに登録されます。

1 調節のもとになるイコライザーカーブを選ぶ

( 音の調節 ② 37ページ)

2 AUDIO ボタンを押す

EQ-L/EQ-M/EQ-H (イコライザー調節メニュー) が表示されます

3 ◀または▶ ボタンを押す

調節する音域を選びます

音域は、EQ-L (低音域)、EQ-M (中音域) EQ-H (高音域) の中から選ぶことができます。

4 ▲または▼ ボタンを押す

レベルを調節します

レベルを大きくするとき：▲を押す

レベルを小さくするとき：▼を押す

レベルは+6～-6の範囲で調節できます。

5 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

小さな音量でも聞きやすくする

LOUDネス

小さな音量で音楽を聞いていると、低音・高音が不足しているように感じることがあります。LOUDネスを使うと、この不足感を補って、音を聞きやすくすることができます。

1 AUDIO ボタンを押す

LOUD (LOUDネスメニュー) が表示されます

2 ▲ ボタンを押す

LOUDネス (LOUD) がONになります

▼ ボタンを押すと、OFFになります。

3 ◀または▶ ボタンを押す

LOUDネスの効果を選べます

LOW (弱)、MID (中)、HI (強) の中から選ぶことができます。

4 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

音の調節

7

サブウーファーを
使う

本機のRCA出力端子には、別売のサブウーファーを接続することができます。接続したサブウーファーの調節は、

- ① サブウーファーのON/OFFと位相切り換え
- ② サブウーファー調節

の2つのステップで行います。

「サブウーファーの設定について」(☞ **はじめに ④ 12ページ**) を参照して、お手持ちのシステムに合ったサブウーファーの設定を行ってください。



ご注意

- 「RCA外部出力設定」(☞ **初期設定 ⑥ 48ページ**) を P/O:FULにしたときは、サブウーファーは調節できません。
- 「サブウーファーのON/OFFと位相切り換え」(☞ **音の調節 ⑧**) で、サブウーファーをOFFにした場合は、「サブウーファーのカットオフ周波数選択とレベル調節」(☞ **音の調節 ⑩ 41ページ**) の操作はできません。

音の調節

8

サブウーファーのON/
OFFと位相切り換え

サブウーファー

本機にサブウーファーを接続して使用する場合は、サブウーファーの設定をONにする必要があります。

ONにしたあと、サブウーファーから出力される音が自然に聞こえるように、位相を切り換えてください。



位相切り換えについて

- サブウーファーから出力される音の中には、フロント/リアスピーカーから出力される音と同じ周波数帯域のものが含まれています。車内条件により、これらの音の位相(音の波形)が反転(干渉)し、打ち消し合ってしまうことがあります。この現象を防ぐために、車内条件によって位相を正相または逆相に切り換えてください。

正相: サブウーファーの音が、フロント/リアスピーカーと同時に出力される

逆相: サブウーファーの音が、フロント/リアスピーカーとタイミングをずらして出力される

1 AUDIO ボタンを押す

SUB.W (サブウーファーメニュー) が表示されます

2 OFFになっている場合は、
▲ ボタンを押す

サブウーファー (SUB.W) がONになります

▼ ボタンを押すと、OFFになります。

3 ◀ または ▶ ボタンを押す

サブウーファーの位相を切り換えます

正相 (NOR) を選ぶとき

: ▶ を押す

逆相 (REV) を選ぶとき

: ◀ を押す

4 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

サブウーファーのカットオフ周波数選択とレベル調節

サブウーファー調節

サブウーファーから出力される低音域（カットオフ周波数）と出力レベルを設定します。他のスピーカーから出力される低音域以外の音とのつながりが自然になるように設定してください。



カットオフ周波数とは

- 50、63、80、100、125 (Hz) の中から選んだ周波数よりも上の周波数（もしくは下の周波数）の音域をカットします。このときに選択する周波数を、カットオフ周波数と呼びます。サブウーファーのカットオフ周波数の設定では、カットオフ周波数よりも上の音域がカットされ、低音域だけが出力されます。また、カットオフ周波数以下の音域の出力レベルを上げることで、低音をさらに強調させることができます。

1 AUDIO ボタンを押す

80:0 (サブウーファー調節メニュー) が表示されます (☞ 音の調節 ③ 38 ページ)

2 ◀ または ▶ ボタンを押す

カットオフ周波数を選びます

高い周波数を選ぶとき：▶ を押す

低い周波数を選ぶとき：◀ を押す

カットオフ周波数は、50、63、80、100、125 (Hz) の中から選ぶことができます。

3 ▲ または ▼ ボタンを押す

レベルを調節します

レベルを大きくするとき：▲ を押す

レベルを小さくするとき：▼ を押す

レベルは、+6～-24の範囲で調節できます。

4 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

低い音を出力しないようにする

ハイパスフィルター

カットオフ周波数 50、63、80、100、125 (Hz) の中から選んだ周波数よりも高い音を、フロントスピーカー、リアスピーカーから出力させる機能です。

フロントスピーカーとリアスピーカーからは高音だけを出力させて、サブウーファーからは低音だけを出力させることで、各スピーカーとサブウーファーの音のつながりを自然にすることができます。ハイパスフィルターの設定は、フロントスピーカー、リアスピーカーそれぞれで設定できます。



ハイパスフィルター (HPF) とは

- ハイパスフィルター (HPF) は、設定した周波数（カットオフ周波数）から下の音域（低音域）をカットして、高音域を通すフィルターです。

1 AUDIO ボタンを押す

HPF (ハイパスフィルター調節メニュー) が表示されます (☞ 音の調節 ③ 38 ページ)



ご注意

- FIE を ON にした場合、ハイパスフィルター (HPF) の設定はできません。

2 ▲ ボタンを押す

ハイパスフィルター (HPF) が ON になります

▼ ボタンを押すと、OFF になります。

3 ◀ または ▶ ボタンを押す

カットオフ周波数を選びます

高い周波数を選ぶとき：▶ を押す

低い周波数を選ぶとき：◀ を押す

カットオフ周波数は、50、63、80、100、125 (Hz) の中から選ぶことができます。

4 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

音の調節
11

低い音を強調させる

バースプースター

サブウーファーから出力される低音域の音を強調させることができます。バースプースターのレベルを上げることで、迫力のある低音をつくり出すことができます。

1 AUDIO ボタンを押す

BASS (バースプースターメニュー) が表示されます

( 音の調節 ● 38 ページ)

2 ▲ または ▼ ボタンを押す

レベルを調節します

レベルを大きくするとき：▲を押す

レベルを小さくするとき：▼を押す

レベルは、0～6の範囲で調節できます。

3 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



メモ

- サブウーファー設定のON/OFFによって、プー
ストされる周波数が次のようになります。
サブウーファー設定がONの場合：サブウーファー
の cutoff 周波数に連動
サブウーファー設定がOFFの場合：100 Hz 固定

音の調節
12音の聞こえてくる方
向を自然にする

リアスピーカーから出力される音を低音だけにすることができます。

低音域の音をリアスピーカーから出力させ、高音域の音をフロントスピーカーだけから出力させることで、音全体が前から聞こえてくるような車内音場をつくり出すことができます。ライブ会場のような音場を再現したいときに効果的です。



FIE とは

- FIEは、「Front Image Enhancer (フロントイメージエンハンサー)」の略です。
100、160、250 (Hz) から選んだ周波数以下の音域が後ろのスピーカーから出力されます。

1 AUDIO ボタンを押す

FIE (FIE メニュー) が表示されます

( 音の調節 ● 38 ページ)



ご注意

- リアスピーカー出力の設定でリアスピーカー出力を「R-SP:S/W」に設定した場合、FIEの設定はできません。
- ハイパスフィルター (HPF) をONにした場合、FIEの設定はできません。

2 ▲ ボタンを押す

FIE が ON になります

▼ ボタンを押すと、OFF になります。

3 ◀ または ▶ ボタンを押す

FIE 周波数を選びます

高い周波数を選ぶとき：▶を押す

低い周波数を選ぶとき：◀を押す

周波数は、100、160、250 (Hz) の中から選ぶことができます。

4 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



ご注意

- FIE は内蔵アンプに対してのみ効果があります。
- FIE を ON にすると、後ろのスピーカーの音は低音だけになります。前後のスピーカーバランスを調節して、自然な音になるように調節してください。(※ 音の調節 ④ 38 ページ)
- 2スピーカーシステムをお使いの方は、FIE を OFF にしてください。
- FIE を OFF にするときは、音量を小さくしてから行ってください。FIE を OFF にすると、後ろのスピーカーから低音以外の音も出力されるので、音量が急に大きくなります。



SLA とは

- SLA は、「Source Level Adjuster (ソースレベルアジャスター)」の略です。

1 AUDIO ボタンを押す

SLA (SLA 調節メニュー) が表示されます



ご注意

- FM を聞いているときは、SLA には切り換わりません。

2 ▲ または ▼ ボタンを押す

レベルを調節できます

レベルを大きくするとき : ▲ を押す

レベルを小さくするとき : ▼ を押す

レベルは +4 ~ -4 の範囲で調節できます。



3 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



メモ

- AM、テレビ、CD、iPod、External (エクスターナルユニット)、AUX (外部機器) の音量差を調節することができます。なお、内蔵 CD とマルチ CD、AUX1 と AUX2、External1 と External2、および AM と交通情報は同じ設定になります。

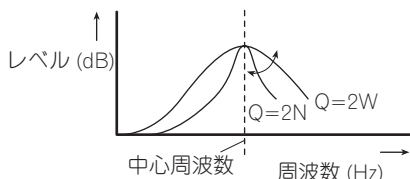
イコライザーカーブを細かく調節する

イコライザーカーブの高音、中音、低音それぞれに細かな修正を加えることで、お好みの音を再現した独自のイコライザーカーブをつくり出すことができます。



イコライザーカーブについて

- イコライザーカーブは、レベル・中心周波数・Qファクター（傾き）の3つの要素を調節して決定します。イコライザーカーブのイメージは、下図のようになります。



イコライザーカーブの調節に、決まったルールはありません。音を聞きながら微調節を加えて、お好みの音質に調節してください。調節したイコライザーカーブは、自動的にCUSTOMカーブに登録されます。

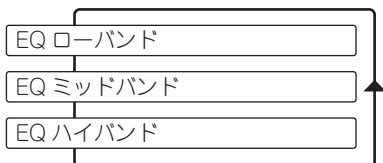
1 AUDIO ボタンを長く押す

イコライザー詳細設定メニューが表示されます



2 AUDIO ボタンを押す

AUDIO ボタンを押すごとに、次の順序でバンド（周波数帯域）が切り換わります



3

◀ または ▶ ボタンを押す

音の中心になる周波数を選びます

表示 (中心周波数 [Hz])	選ばれているバンド
40, 80, 100, 160のいずれか	EQ ローバンド
200, 500, 1k, 2kのいずれか	EQ ミッドバンド
3k, 8k, 10k, 12kのいずれか	EQ ハイバンド

4

▲ または ▼ ボタンを押す

選んだバンドのQファクター（イコライザーカーブの傾き）を選びます

傾きを強めるとき：▲を押す
傾きを弱めるとき：▼を押す



Qファクターについて

- Qファクターは、2Nが最も急な傾きになり、1N、1W、2Wの順で傾きが緩やかになります。

5

BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

初期設定メニューの切り換えかた

初期設定メニューは、電源をOFFにした状態で操作します。

(画面例)



1 SOURCE ボタンを長く押す

本機の電源をOFFにします

2 もう一度 SOURCE ボタンを長く押す

初期設定モードが表示されます

3 FUNCTION ボタンを押す

FUNCTION ボタンを押すごとに、次の順序で機能が切り換わります



時計を合わせる

時計調整

本機のディスプレイに時計を表示するために、時計を合わせておきます。

1 初期設定メニューを表示する

「初期設定メニューの切り換えかた」を参照して、初期設定メニューを表示します

2 FUNCTION ボタンを押す

時計調整を選びます

3 ◀または▶ ボタンを押す

時または分を選びます

押すごとに、時と分が切り換わります。

4 ▲または▼ ボタンを押す

時刻を合わせます

時刻を進めるとき : ▲を押す

時刻を戻すとき : ▼を押す

分を調節すると、0秒からカウントが始まります。

5 BAND ボタンを押す

電源OFFの状態に戻ります



メモ

- 初期設定メニューを解除するときは、BAND ボタンを押します。

初期設定

3

フロントパネルの外し忘れを警告する

デタッチワーニング

デタッチワーニングは、車を離れるときに、フロントパネルの外し忘れを警告ブザーで知らせる機能です。(初期設定では、ONになっています。)

フロントパネルを取り外すには (☞ はじめに ⑤ 14 ページ)

1 初期設定メニューを表示する

「初期設定メニューの切り換えかた (☞ 初期設定 ① 45 ページ)」を参照して、初期設定メニューを表示します

2 FUNCTION ボタンを押す

デタッチワーニングモードを選びます

3 ▲ ボタンを押す

デタッチワーニングの設定が ON になります

▼ ボタンを押すと、OFF になります。

4 BAND ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

初期設定

4

外部機器 (AUX) の音声を聞けるようにする

本機にポータブル音楽再生機器やVTR、ナビゲーションユニットなどの外部機器を接続して、その音声を聞くことができます。



外部機器を接続するには

外部機器の接続には、次の3通りの方法があります。

- ① 付属のAUXケーブルや市販のミニプラグを使用する場合 (AUX1)
- ② 別売のRCA / IP-BUS インターコネクターを使用する場合 (AUX2)
- ③ IP-BUS を使用する場合 (AUX2)
(パイオニア製ナビゲーションユニットのようにIP-BUS出力を持つパイオニア製品をつなげる場合)



メモ

- AUX2は、②と③のどちらか一方の接続方法で使用できます。(両方の接続方法を同時に使用することはできません。)
- 外部機器の名称を変更することもできます。接続した機器に合わせて名称を変更しておくとう便利です。外部機器の名称を変更するには (☞ **便利な機能 ⑤ 50 ページ**) を参照してください。

- ① 付属のAUXケーブルや市販のミニプラグを使用する場合

本体背面のAUX入力端子 (3.5 mm φ) に接続します。詳しくは、「本機のスピーカーリードにサブウーファーを接続しない場合 (☞ **取付説明書**)」をご覧ください。この場合、接続した外部機器は、AUX1ソースとして認識されます。

- ② 別売のRCA / IP-BUS インターコネクターを使用する場合

接続する外部機器にRCA出力がある場合、別売のRCA / IP-BUS インターコネクター「CD-RB10」または「CD-RB20」を使用して、本機のIP-BUS入力端子に接続します。接続した外部機器は、AUX2ソースとして認識されます。詳しくは、RCA / IP-BUS インターコネクターの説明書をご覧ください。

- ③ IP-BUS を使用する場合 (パイオニア製ナビゲーションユニットなどを接続する場合)

別売のIP-BUSケーブル (例: 「CD-IP600」) を使用して、本機のIP-BUS入力に接続します。接続したナビゲーションユニットはAUX2ソースとして認識され、音声のみが出力されます。

リアスピーカー出力に接続するスピーカーの種類に合わせて、リアスピーカーの出力方法を切り換えます。

- ① フルレンジスピーカーを接続するとき：
R-SP :FULに設定してください
- ② サブウーファーを接続するとき：
R-SP :S/Wに設定してください

リアスピーカー出力の設定を“R-SP :S/W”に切り換えると、リアスピーカー端子にサブウーファーを直接接続することができません。

1 初期設定メニューを表示する

「初期設定メニューの切り換えかた (☞ 初期設定 ① 45 ページ)」を参照して、初期設定メニューを表示します

2 FUNCTION ボタンを押す

R-SP (リアスピーカー出力設定モード) を選びます

3 ▲ または ▼ ボタンを押す

リアの出力方法を切り換えます

- FUL : ▲ を押す
(フルレンジスピーカーを接続するとき)
- S/W : ▼ を押す
(サブウーファーを接続するとき)

4 BAND ボタンを押す

電源 OFF の状態に戻ります

1 初期設定メニューを表示する

「初期設定メニューの切り換えかた (☞ 初期設定 ① 45 ページ)」を参照して、初期設定メニューを表示します

2 FUNCTION ボタンを押す

AUX1 または AUX2 を選びます

3 ▲ ボタンを押す

外部機器設定が ON になります

▼ ボタンを押すと、OFF になります。

- AUX1 は初期設定では ON に設定されています。使用しない場合は OFF に設定してください。

4 BAND ボタンを押す

電源 OFF の状態に戻ります

初期設定

6

RCA外部出力から出力される信号を選ぶ

RCA外部出力設定

本機のRCA外部出力端子に外部アンプを接続して、フルレンジスピーカーまたはサブウーファーを使用できます。接続するスピーカーに応じて、RCA外部出力端子から出力される信号を選んでください。

- ① サブウーファーを接続したとき：
P/O :S/Wに設定してください
- ② フルレンジスピーカーを接続したとき：
P/O :FULに設定してください



リア出力にサブウーファーをつなげたときは

- 「リアスピーカー出力の設定 (☞ 初期設定 ⑤ 47ページ)」でリアスピーカー出力を“R-SP:S/W”に設定したときは、RCA外部出力の設定はできません。

1

リアスピーカー出力の設定をR-SP:FULにする

「リアスピーカー出力を設定する (☞ 初期設定 ⑤ 47ページ)」を参照して、設定をFULにします

2

◀または▶ ボタンを押す

P/O (RCAの出力方法) を切り換えます

- S/W : ◀を押す
(サブウーファーを接続するとき)
- FUL : ▶を押す
(フルレンジスピーカーを接続するとき)

3

BAND ボタンを押す

電源OFFの状態に戻ります

初期設定

7

イルミネーションの色を調整する

イルミネーション色設定

赤 (RED)、緑 (GREEN)、青 (BLUE) の3色のレベルを調節することにより、お好みのディスプレイの色、ボタンイルミネーションの色を作ることができます。

1

初期設定メニューを表示する

「初期設定メニューの切り換えかた (☞ 初期設定 ① 45ページ)」を参照して、初期設定メニューを表示します

2

FUNCTION ボタンを押す

ディスプレイ色設定モードが表示されます

3

◀または▶ ボタンを押す

調節する色を選びます

RED (赤)、GREEN (緑)、BLUE (青) の中から選ぶことができます。

4

▲または▼ ボタンを押す

色のレベルを調節します

レベルを強めるとき : ▲を押す
レベルを弱めるとき : ▼を押す
レベルは、0~4の範囲で調節できます。

5

BAND ボタンを押す

電源OFFの状態に戻ります



メモ

- 調節した色は“CUSTOM”に自動的に登録されます。(☞ 便利な機能 ④ 50ページ)
- “CUSTOM”に登録された内容は、ディスプレイ、ボタンのイルミネーション共通です。

時計を表示する

時計表示

本機のディスプレイに、時計を表示できません。時計は、本機の電源がONのときもOFFのときも表示させることができます。



時計表示について

- 本機に時計を表示させる前に、時計を合わせる必要があります。「時計を合わせる (※¹ 初期設定 ② 45 ページ)」を参照して、時計を合わせてください。

1 TI ボタンを長く押す

時計が表示されます

もう一度 TI ボタンを長く押すと、時計表示が解除されます。



メモ

- 本機の電源がONのときは、時計表示中に他の操作をすると、時計表示は一度解除されます。この場合、25秒後に時計表示に戻ります。

交通情報を受信する

トラフィックインフォメーション

高速道路などで放送されている交通情報ラジオを、瞬時に受信できます。この機能は、電源OFFのときでも、どのソースからでも操作可能なので、情報を逃さず受信できます。

1 TI ボタンを押す

交通情報を受信します

受信をやめるときは、TI ボタンをもう一度押します。交通情報を受信する前の状態に戻ります。

2 ◀または▶ ボタンを押す

交通情報の周波数を切り換えます

- 1 620 kHz を選ぶとき : ◀ を押す
- 1 629 kHz を選ぶとき : ▶ を押す



メモ

- 交通情報を受信しているときに音量を調節すると、交通情報用の音量として設定できます。

便利な機能

3

外部機器の名称を入力する

AUX (外部機器) 名称入力

外部機器 (AUX) の名称を本機に入力して、ディスプレイに表示させることができます。

たとえば、VTR を外部機器として本機に接続した場合は、初期状態で表示される“AUX1”または“AUX2”を“VTR”に変更して表示させることができます。

1 SOURCE ボタンを押す

AUX1 または AUX2 を選びます

2 FUNCTION ボタンを長く押す

AUX (外部機器) 名称入力モードが表示されます



3 AUX (外部機器) の名称を入力して記憶させる

CD タイトル入力 (※ CD ② 29 ページ) の手順 3 ~ 6 を参照し、同様の操作で AUX (外部機器) の名称を入力してください。



メモ

- 外部機器の名称は8文字まで入力できます。

便利な機能

4

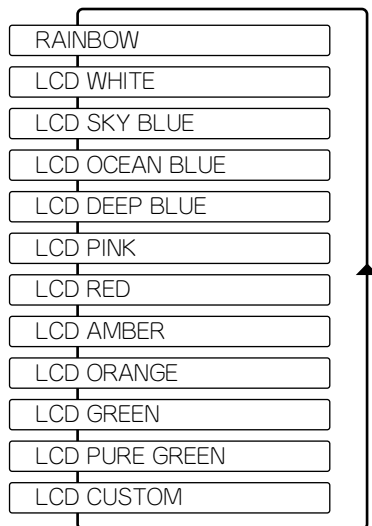
ディスプレイの色を切り換える

ディスプレイカラー切り換え

ディスプレイの色を変えることができます。

1 ILLUMINATION ボタンを押す

ILLUMINATION ボタンを押すごとに、次の順序で色が切り換わります。



メモ

- “RAINBOW” に設定した場合、“LCD WHITE” から “LCD PURE GREEN” を順に切り換えて表示します。
- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND ボタンを押します。(約8秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。)



LCD CUSTOM について

- “LCD CUSTOM” には、お好みに合わせて調節した色が登録されます。(※ 初期設定 ⑦ 48 ページ)

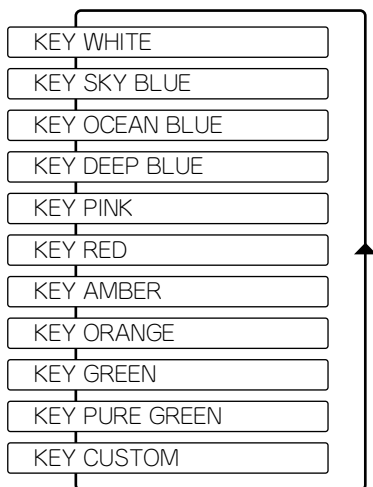
ボタンのイルミネーションの色を切り換える

ボタンイルミネーションカラー切り換え

ボタンのイルミネーションの色を変えることができます。

1 ILLUMINATION ボタンを長く押す

ILLUMINATION ボタンを押すごとに、次の順序で色が切り換わります。



メモ

- ディスプレイの色を“RAINBOW”に設定した場合、ボタンのイルミネーションの色もディスプレイに合わせて自動で切り換ります。ボタンのイルミネーションの色を切り換えるには、ディスプレイの色を“RAINBOW”以外に設定してください。(※ 便利な機能④ 50 ページ)
- 普通の再生画面に戻るときは、BAND ボタンを押します。(約8秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。)



KEY CUSTOM について

- “KEY CUSTOM” には、お好みに合わせて調節した色が登録されます。(※ 初期設定⑦ 48 ページ)

ミュート機能について

ミュート

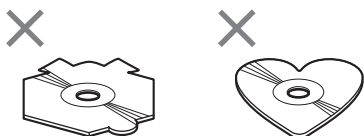
ミュート機能のあるパイオニア製ナビゲーションシステムと本機を組み合わせると、その製品からミュート信号を受け取っているときだけ、ミュートまたはアッテネート機能が働きます。

使用できるCDについて

- 下記マークの付いているコンパクトディスク（光学式デジタルオーディオディスク）をご使用ください。



- 本機は音楽CD規格に準拠して設計されています。コピーコントロールCDなどのCD規格外ディスクの動作保証及び性能保証は致しかねます。
- ひび、キズ、そりのあるCDは使用しないでください。
- 特殊形状のディスクは、使用しないでください。故障の原因になります。



- 音楽用CDレコーダーまたはパソコンで記録したCD-R/CD-RWディスクは、ディスクの特性やキズ・汚れ、または本機内部のレンズの汚れ・露などにより、本機では再生できない場合があります。
- パソコンで記録したディスクは、アプリケーションの設定および環境によって再生できない場合があります。（詳細は、アプリケーションの発売元にお問い合わせください。）
- 直射日光や高温など、車内での保管状況により、CD-R/CD-RWディスクは再生できなくなる場合があります。
- CD-R/CD-RWディスクに記録されているタイトルなどの文字情報は、本機では表示されない場合があります。（音楽データ（CD-DA）再生時）

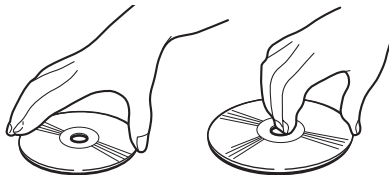
- ファイナライズされていないCD-R/CD-RWディスクには対応していません。
- CD-R/CD-RWディスクの取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

「DualDisc」の再生について

- 「DualDisc」は、片面にDVD規格準拠の映像やオーディオが、もう片面にCD再生機での再生を目的としたオーディオがそれぞれ収録されています。
- DVD面ではないオーディオ面は、一般的なCDの物理的規格に準拠していないために再生できないことがあります。
- 「DualDisc」を再生機器に挿入をしたり、取り出しをしたりするときに再生面の反対側の面に傷がつく場合があります。傷が付いた面は再生すると不具合がでる場合があります。
- ディスクを取り出せないといった不具合が起こる可能性がありますので「DualDisc」は使用しないでください。
- 「DualDisc」の仕様や規格などの詳細に関しては、ディスクの発売元または販売元にお問い合わせください。

取り扱い上のご注意

- CDは、下図のように、信号記録面（虹色に光っている面）をさわらないように持ってください。

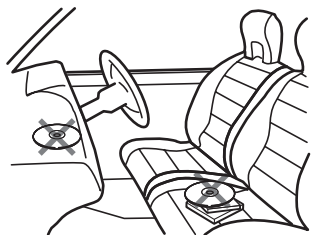


- CDにキズを付けないでください。
- CDにシールなどを貼り付けないでください。



保管上のご注意

- 直射日光の当たるところや高温になるところには、CDを保管しないでください。



- CDがそらないように、必ずケースに入れて保管してください。

お手入れについて

- CDが汚れたときは、柔らかいきれいな布でCDの内周から外周方向へ軽くふいてください。



- アナログ式レコード用のクリーナー、静電気防止剤などは使用しないでください。またベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。

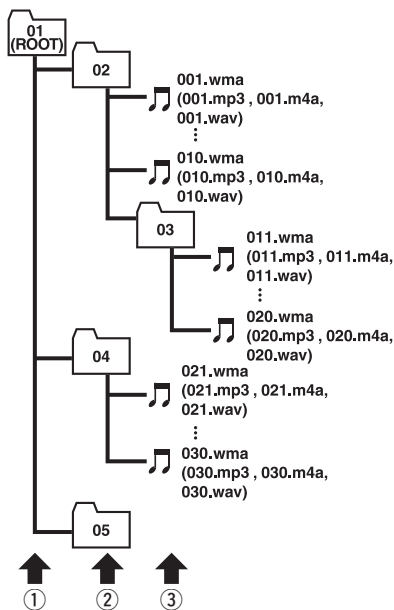


CD再生の環境について

- 走行中、振動のショックで音飛びを起こすことがあります。
- 寒いとき、ヒーターを入れた直後にCD再生を始めると、本機内部の光学系レンズやCDに露が生じて、正常な再生ができないことがあります。このようなときは、1時間ほど放置して自然に露がとれるのをお待ちください。CDに付いた露は柔らかい布でふいてください。

フォルダーと WMA/MP3/AAC/WAV ファイルについて

- WMA/MP3/AAC/WAV ファイルを収録した CD-R/CD-RW/CD-ROM のイメージは下図のようになります。



1階層 2階層 3階層

- 本機は WMA/MP3/AAC/WAV ファイルが記録された CD-R/CD-RW/CD-ROM の再生に対応しています。ISO9660 のレベル 1、レベル 2、および拡張フォーマット (Joliet、Romeo) に準拠して記録されたディスクが再生可能です。
- 本機はマルチセッション方式で記録したディスクの再生に対応しています。

- パケットライトには対応していません。
- m3u のプレイリストには対応していません。
- MP3i (MP3 interactive) フォーマット、および MP3 PRO フォーマットには対応していません。
- ファイル名の最大表示文字数は、拡張子 (.wma, .mp3, .m4a, .wav) を含めて半角で 64 文字までです。また、フォルダー名の最大表示文字数は半角で 64 文字までです。(全角文字表示に対応している製品では、半角で 64 文字、全角で 32 文字まで表示できます。)
- 拡張フォーマット (Romeo) に準拠して記録されたファイルの場合、半角で先頭から 64 文字までの表示に対応しています。(全角文字表示に対応している製品では、半角で 64 文字、全角で 32 文字まで表示できます。)
- 再生などの操作でフォルダーが選択される順番は、ライティングソフトで書き込まれた順番になります。ただし、ライティングソフトによっては、再生の順番を設定できるものもあります。
- 曲間 (トラック間) にブランクがない CD を、WMA/MP3/AAC/WAV ファイルとして CD-R/CD-RW/CD-ROM に記録して再生した場合、曲間が音飛びしたように聞こえます。

メモ

- フォルダー番号は本機が割り当てます。お客様が割り当てることはできません。
- CD-R、CD-RW、CD-EXTRA、MIXED-MODE CD ディスクに、WMA/MP3/AAC/WAV ファイルと音楽データ (CD-DA) が混在しているときは、WMA/MP3/AAC/WAV ファイルと、音楽データ (CD-DA) を切り換えることができます (※ **ここだけ**で ② 19 ページ)。WMA/MP3/AAC/WAV ファイルと、音楽データ (CD-DA) を切り換えた場合、再生は一番先頭の曲から始まります。
- WMA/MP3/AAC/WAV ファイルを含まないフォルダーは認識しません。(フォルダー番号を表示せず、スキップします。)
- 8階層までの WMA/MP3/AAC/WAV ファイルの再生に対応しています。ただし、多くの階層を持つディスクは、再生が始まるまでに時間がかかります。ディスク作成時には、階層を 2つ以下にすることをおすすめします。
- ディスクに含まれるフォルダーの合計が 99 個まで再生可能です。

WMA とは？

- 「Windows Media™ Audio」の略で、米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。WMA データは、Windows Media Player Ver. 7以降を使用してエンコードすることができます。



ご注意

- WMA ファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
- WMA ファイルをエンコードした Windows Media Player のバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- 画像データを含む WMA ファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

再生できる WMA ファイルについて



ご注意

- WMA ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.wma) を付けてください。
- 本機は、拡張子 (.wma) が付いているファイルを WMA ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、WMA ファイル以外には拡張子 (.wma) を付けしないでください。
- 本機では、Windows Media Player Ver. 7/7.1/8/9/10 を使用してエンコードした WMA ファイルを再生することができます。
- 再生可能な WMA ファイルのサンプリング周波数は 32/44.1/48 kHz です。
- 一般的に WMA ファイルは、ビットレートが高いほど音質は良くなります。本機は、CBR (固定ビットレート) では 48kbps ~ 320kbps、VBR (可変ビットレート) では 48kbps ~ 384kbps のビットレートで記録された WMA ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、できるだけ高いビットレートで記録されたディスクの使用を推奨します。
- デジタル著作権保護 (DRM) で保護されたファイルを再生したときは、“SKIPPED” と表示され、そのファイルの再生がスキップされます。
- ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権保護 (DRM) で保護されている場合は、“PROTECT” と表示され、そのディスクは再生できません。
- この製品は、下記の形式には対応していません。
 - ・ Windows Media Audio 9 Professional (5.1ch)
 - ・ Windows Media Audio 9 Lossless (可逆圧縮)
 - ・ Windows Media Audio 9 Voice

MP3とは？

- 「MPEG Audio Layer 3」の略で、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

再生できるMP3ファイルについて



ご注意

- MP3ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子(.mp3)を付けてください。
- 本機は、拡張子(.mp3)が付いているファイルをMP3ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、MP3ファイル以外には拡張子(.mp3)を付けないでください。
- ID3 tagのVer. 1.0/1.1/2.2/2.3/2.4のアルバム名、曲名、およびアーティスト名の表示に対応しています。なお、ID3 tagのVer. 1.XとVer. 2.Xが混在している場合は、Ver. 2.Xが優先されます。
- サンプリング周波数が32/44.1/48 kHzのMP3ファイルを再生する場合のみ、エンファシスに対応します。(なお、再生可能なサンプリング周波数は16 kHz～48 kHzです。)
- 一般的にMP3ファイルは、ビットレートが高いほど音質は良くなります。本機は、8kbps～320kbpsのビットレートで記録されたMP3ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、128kbps以上のビットレートで記録されたディスクの使用を推奨します。

AACとは？

- 「Advanced Audio Coding」の略で、MPEG2、MPEG4で使用される音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

再生できるAACファイルについて



ご注意

- AACファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子(.m4a)を付けてください。
- 本機では、Ver. 6.05以前のiTunesを使用してエンコードされたAACファイルの再生に対応していません。
- 本機は、iTunesで作成された拡張子(.m4a)が付いているファイルをAACファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、AACファイル以外には拡張子(.m4a)を付けないでください。
- 画像データを含むAACファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。
- AACファイルをエンコードしたiTunesのバージョンによっては、正しく再生されないことがあります。
- 再生可能なAACファイルのサンプリング周波数は、11.025 kHz～48 kHzです。
- 一般的にAACファイルは、ステレオビットレートが高いほど音質は良くなります。本機は、16kbps～320kbpsのステレオビットレートで記録されたAACファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、できるだけ大きいステレオビットレートで記録されたディスクの使用を推奨します。VBR(可変ビットレート)で記録されたAACファイルは再生できません。
- iTunesミュージックストアで購入された楽曲(.m4p)は、CD-R/CD-RWに記録して再生することはできません。
- この製品は、下記の形式には対応していません。
 - ・ Apple ロスレス・エンコーダ

WAVとは？

- 「Waveform」の略で、Windows®での標準音声フォーマットです。

再生できるWAVファイルについて



ご注意

- WAVファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子(.wav)を付けてください。
- 本機は、拡張子(.wav)が付いているファイルをWAVファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、WAVファイル以外には拡張子(.wav)を付けしないでください。
- 本機は、LPCM形式およびMS ADPCM形式でエンコードされたWAVファイルの再生に対応しています。
- 本機は、LPCM形式では16 kHz～48 kHz、MS ADPCM形式では22.05 kHz～44.1 kHzのサンプリング周波数で記録されたWAVファイルの再生に対応しています。
- 表示されるサンプリング周波数の桁は、すべてではないことがあります。
- 一般的にWAVファイルは、量子化ビット数が多いほど音質は良くなります。本機は、LPCMでは8/16 bit、MS ADPCMでは4 bitの量子化ビット数で記録されたWAVファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、できるだけ大きい量子化ビット数で記録されたディスクの使用を推奨します。

故障かな?と思ったら

故障かな?と 思ったら

修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。



それでも 直らないときは

「保証書とアフターサービス」(E3 その他 ⑤ 61 ページ)をお読みになり、修理を依頼してください。

共通項目

症状	原因	処置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクタが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているかどうか、もう一度確認してください。(E3 取付説明書)
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズと同じ容量のものと交換してください。(E3 取付説明書)
音が出ない。 音が小さい。	音量を下けている。	音量を上げてください。(E3 ここだけで ① 16 ページ)
	アッテネーターがONになっている。	アッテネーターを解除してください。(E3 はじめに ② 8 ページ)
	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。(E3 音の調節 ④ 38 ページ)
前または後ろのスピーカーから音が出ない。	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。(E3 音の調節 ④ 38 ページ)
左または右のスピーカーから音が出ない。	左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。(E3 音の調節 ④ 38 ページ)

ラジオ

症状	原因	処置
ラジオの受信中、“ジージー、ザーザー”という雑音が多い。	放送局の周波数が合っていない。	周波数を正しく合わせてください。(E3 ここだけで ③ 20 ページ)
	放送局の電波が弱い。	他の放送局を選局してみてください。(E3 ここだけで ③ 20 ページ)
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、雑音が少なくなります。
自動選局できない。	放送局の電波が弱い。	手動で選局してください。(E3 ここだけで ③ 20 ページ)

CD、WMA／MP3／AAC／WAV

症状	原因	処置
CD再生中、大きな雑音が出る。	CDに大きなキズやそりがある。	他のCDに交換してください。良くなれば、CDの不良です。
CDの再生が途中で止まる。 CDを再生できない。	CDが極端に汚れている。	CDの汚れをふき取ってください。 (<small>☞</small> その他 ① 52 ページ)
	CDにくもりや水滴が付いている。	CDのくもりや水滴をふき取ってください。 (<small>☞</small> その他 ① 52 ページ)
	CDの裏表を逆にしてセットしている。	CDのタイトル面を上にしてセットしてください。(<small>☞</small> ここだけで ② 18 ページ)
CDを再生できない。 CDを取り出せない。	本機がディスクを認識していない。	フロントパネルを開けた状態で、CD EJECT ボタンを2秒以上押しと、ディスクを取り出すことができます。 もう一度、入れ直してください。

こんなメッセージが表示されたら

CD、WMA / MP3 / AAC / WAVのエラー表示

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「ERROR-11」 「ERROR-12」 「ERROR-17」 「ERROR-30」	CDが汚れている。	CDの汚れをふき取ってください。 (※ その他 ① 52 ページ)
	CDにキズやひびがある。	CDを交換してください。
「ERROR-12」 「ERROR-15」 「ERROR-17」	CD-R / CD-RWを録音しないまま使用している	CD-R / CD-RWは録音してからお使いください。
「ERROR-22」 「ERROR-23」	再生できないフォーマットのCD-ROMを挿入した。	CDを交換してください。
「ERROR-10」 「ERROR-11」 「ERROR-12」 「ERROR-15」 「ERROR-17」 「ERROR-30」 「ERROR-50」 「ERROR-A0」	電気系、機構系の故障が考えられる。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、CD再生を一度やめてから、もう一度CD再生にしてください。
「NO AUDIO」	何も録音されていないCD-ROMを挿入した	WMA / MP3 / AAC / WAVファイルの記録されているCD-ROMと交換してください。
「SKIPPED」	デジタル著作権保護 (DRM) で保護されたWMAファイルを再生した。	デジタル著作権保護 (DRM) で保護されていないファイルを再生してください。
「PROTECT」	ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権保護 (DRM) で保護されている。	CDを交換してください。



メモ

- マルチ CD 再生中に、上記以外のエラーメッセージが表示されたときは、マルチ CD の取扱説明書をご覧ください。

保証書とアフターサービス

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることを確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。(性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

■ 共通部

使用電源：

DC 14.4 V (10.8~15.1 V 使用可能)

アース方式：

マイナスアース方式

最大消費電流：

10.0 A

外形寸法：

(取付寸法)：

178 (W) × 50 (H) × 162 (D) mm

(ノーズ寸法)：

170(W) × 46 (H) × 16 (D) mm

質量：

1.3 kg (コード含まず)

■ アンプ/オーディオ部

最大出力：

50 W × 4

50 W × 2 ch/4 Ω + 70 W × 1 ch/2 Ω

(for サブウーファー)

定格出力：

22 W × 4

(50~15 000 Hz、5 % THD)

負荷インピーダンス：

4 Ω~8 Ω × 4

4 Ω~8 Ω × 2 + 2 Ω × 1

プリアウト最大出力レベル：

2.2 V

出カインピーダンス：

1 k Ω

イコライザー

(3バンド パラメトリック イコライザー)：

(LOW)

周波数: 40/80/100/160 Hz

Q ファクター: 0.35/0.59/0.95/1.15

(+6 dB ブースト時)

調整幅: ± 12dB

(MID)

周波数: 200/500/1K/2K Hz

Q ファクター: 0.35/0.59/0.95/1.15

(+6 dB ブースト時)

調整幅: ± 12dB

(HIGH)

周波数: 3.15K/8K/10K/12.5K Hz

Q ファクター: 0.35/0.59/0.95/1.15

(+6 dB ブースト時)

調整幅: ± 12dB

ラウドネスコンター：

(LOW)：

3.5 dB (100 Hz)

3 dB (10 kHz)

(MID)：

10 dB (100 Hz)

6.5 dB (10 kHz)

(HIGH)：

11 dB (100 Hz)

11 dB (10 kHz)

(ポリリューム: -30 dB)

ハイパスフィルター：

周波数: 50/63/80/100/125 Hz

スロープ: -12 dB

サブウーファー出力：

周波数: 50/63/80/100/125 Hz

スロープ: -18 dB

調整幅: +6~-24 dB

位相: NORMAL/REVERSE

バスブースター：

調整幅: +12~0 dB

■ CDプレーヤー部

- 形式：
コンパクトディスクオーディオシステム
- 使用ディスク：
コンパクトディスク
- 信号フォーマット：
サンプリング周波数：
44.1 kHz
量子化ビット数：
16ビット直線
- 周波数特性：
5～20 000 Hz (±1 dB)
- S/N比：
94 dB (1 kHz)
(IHF-A ネットワーク)
- ダイナミックレンジ：
92 dB (1 kHz)
- チャンネル数：
2 (ステレオ)
- WMA デコーディングフォーマット：
Ver. 7、7.1、8、9、10 (2 ch audio)
(Windows Media Player)
- MP3 デコーディングフォーマット：
MPEG-1 & 2 AUDIO LAYER-3
- AAC デコーディングフォーマット：
MPEG-4 AAC
(iTunes でエンコードされたもののみ)
- WAV シグナルフォーマット：
Linear-PCM、MS ADPCM

■ FM チューナー部

- 受信周波数帯域：
76.1～89.9 MHz
- 実用感度：
8 dBf (0.7 μ V/75 Ω 、
モノラル、S/N：30 dB)
- S/N：
75 dB (IHF-A ネットワーク)
- 高調波歪率：
0.3 % (65 dBf 入力、1 kHz、ステレオ)、
0.1 % (65 dBf 入力、1 kHz、モノラル)
- 周波数特性：
30～15 000 Hz (±3 dB)
- ステレオセパレーション：
45 dB (65 dBf 入力、1 kHz)

■ AM チューナー部

- 受信周波数帯域：
522～1 629 kHz (9 kHz)
- 実用感度：
18 μ V (S/N：20 dB)
- S/N：
65 dB (IHF-A ネットワーク)

■ 付属品

- | | |
|----------------|-------|
| コードユニット | : 1 |
| 取付ネジ類 | : 1 式 |
| 取扱説明書 | : 1 |
| 取付説明書 | : 1 |
| 安全上のご注意 | : 1 |
| 保証書 | : 1 |
| ご相談窓口・修理窓口のご案内 | : 1 |



メモ

- 上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。

<各窓口へのお問い合わせ時のご注意>

市外局番「0070」で始まる ☎ フリーフォン、および「0120」で始まる ☎ フリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い(取り付け・組み合わせなど)については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口 ● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求窓口

カスタマーサポートセンター (全国共通フリーフォン)

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～17:00 (弊社休業日は除く)

● カーオーディオ/カーナビゲーション商品

電話 ☎ **0070-800-8181-11** 【一般電話】 **03-5496-8016**

ファックス **03-3490-5718**

インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/>

※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

修理窓口のご案内

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の「故障かな?と思ったら」を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、① 型名、② ご購入日、③ 故障症状を具体的にご連絡ください。

修理についてのご相談窓口 ● お買い求めの販売店に修理の依頼ができない場合

修理受付センター (沖縄県を除く全国)

受付時間 月曜～金曜 9:30～19:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

電話 ☎ **0120-5-81028** 【一般電話】 **03-5496-2023**

ファックス ☎ **0120-5-81029**

インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/repair.html>

※インターネットによる修理受付対象商品は、家庭用オーディオ/ビジュアル商品に限ります

沖縄サービスステーション (沖縄県のみ)

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00 (土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く)

電話 【一般電話】 **098-879-1910**

ファックス **098-879-1352**

部品のご購入についてのご相談窓口 ● 部品(付属品・リモコン・取扱説明書など)のご購入について

部品受注センター

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

電話 ☎ **0120-5-81095** 【一般電話】 **0538-43-1161**

ファックス ☎ **0120-5-81096**

パイオニア株式会社

〒153-8654 東京都目黒区目黒 1-4-1

© パイオニア株式会社 2006

< KOKZX > < 06H00000 > < YRA5035-A/U >